

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790500096		
法人名	有限会社 アーバンエステート		
事業所名	グループホーム まえはら		
所在地	宜野湾市真栄原3丁目6番28号		
自己評価作成日	令和2年 月 日	評価結果市町村受理日	令和3年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail/022_kani=true&JigyosyoCd=4790500096-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和2年 11月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さん、一人ひとりに合った生活のペースで、出来る事を職員と一緒に頑張り、家庭的な雰囲気や大事にする。心身の状態、状況に合わせ、ケアを心がけ、レク活動、園外ドライブ、買い物等、楽しく笑いがある生活が出来るよう、利用者、職員共に支え合いなら支援していく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スーパー、病院、公園と何かとアクセスのしやすい住宅街の一角に立地し、施設でありながら住み慣れた自宅のような佇まいの平屋で、専門の介護職員によるサービスを受けながら暮らしている。塀を隔てたすぐ隣の敷地は学校の校庭で、運動会等、行事でにぎやかに盛り上がることもある。施設が地域の一員としてつながりながら暮らし続けられるよう日常的に交流を続けている。新型コロナウイルス感染予防にて全員で外出する機会が減り、イベント参加等も中止となってしまったが1週間に1回は職員が、個別に利用者が住んでいた付近へのドライブや買い物等で気分転換を図っている。利用者を楽しませたい、職員も楽しく働きたいとの思いで理念に沿ったケアを実践し、働きがいや意欲を高める。利用者の思いや意向は、アセスメントや日々の会話のなかで聴き把握に努め「コーラが飲みたい」「買い物に行きたい」等の要望に応じている。また週間献立表のなかで、利用者の食べたいもの、好評だったメニュー、不評だったメニュー等、情報を記録している。介護計画の目標は各利用者ごとに、「元気で頑張る表」と題し壁に張り、〇✳を書き込むことで実施記録を可視化し利用者が目標達成に意欲的に取り組める工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示し、職員の意識付けをしている。	[出会いに感謝]「お互いに思い合い」「自分らしく」「楽しく生きる」職員の思いをこめ作り上げた事業所独自の理念はフロア内の目につく場所に掲示することで意識付けを行っている。利用者が自分らしく笑顔で楽しく暮らせるようにとの思いで暮らしをサポートする職員自身も、理念に沿ったケアを実践することで働きがいを高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が来所してくれます。利用者さんと一緒にゴミ箱作りやおしゃべりなど楽しんでます。近くの保育園児の訪問もあります。	住宅街に佇む一軒家という環境から近隣住民と日常的に交流している。新型コロナウイルス感染症蔓延するなか、対策として地域行事へ参加を見送り面会禁止を徹底し、協力していただいている。連絡等やりとりは継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会等の集会、イベントへの参加、中・高生の職場体験の受け入れを行っている。地域の方々からご家族の相談があれば対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容の報告だけにとどまることの無いよう取り組んでいる。自治会長、知見を有する方々からの意見をいただき、	運営推進会議は偶数月の第2水曜に設定し、利用者や家族代表、行政、知見者、地域代表で構成されている。「沖縄コロナ警報」が発出された月は会議未実施で議事録のみ留めている。議事録は職員・利用者、家族が閲覧できるようコーナーを設けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所、介護長寿課、生活保護課へ入居者さんと一緒に訪問し、近況報告をしている。困難事例等は包括支援センターに相談、助言協力をいただいている。	運営推進会議の構成員でもある市の担当者へは運営や現場実情を伝える機会として協力関係を築いている。職員は市からの案内の講座や研修に参加している。各市町の認知症高齢者等の見守り・SOSネットワークへの取り組みも検討している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を定期的に行っており、職員同士、相談助言、話し合いを日頃からしており、身体拘束についての意識をしている。	身体的拘束等の適正化のための指針を整備している。身体拘束適正化委員会は運営推進会議のメンバーで構成し検討会議は2か月に1回開催している。職員の勉強会は月1回実施され、日常のケアのなかで身体拘束にあたらぬか？等、話し合い身体拘束を深く理解したうえで拘束しないケアに取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティング・勉強会で虐待について話し合い、事例等をあげ日頃のケアについて考える機会を設けている。	高齢者虐待についてのマニュアルが整備され、職員はミーティングや事業所内外の勉強会等で学び、日々の支援のなかで虐待にあたらぬか、不適切な言葉かけはないか話し合い虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症高齢者の権利擁護について勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご本人、ご家族に説明し、分かりやすく説明することを心がけている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、面会時等ご家族からの意見、要望について全職員で対応、共有している。	新型コロナウイルス感染症から利用者を守るため、外部からの面会を禁止しているなか、利用者家族からの要望でガラス越しの面会をかなえたり、オンライン面会のためのアプリケーション導入を検討している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見を聞き、話し合いをし、毎月のミーティングでも報告し反映するよう心がけている。	職員意見は、ミーティングや申し送りの他、直接管理者へ相談している。シフトの調整や内外部研修への参加やレクリエーションの提案等を聴く機会を設け反映させている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の得意な事をケアに活かしたり役割を持ってもらい、自信・やりがいに繋がり、楽しく仕事ができるよう努めている。	就業規則が整備され、有給休暇や手当等労働条件が規定されている。健康診断は年1回と夜勤者は年2回受診している。職員全員が介護経験5年以上で、勤務年数の長い職員で構成されている。管理者は、職員が心身とも健康に楽しく働けるよう職場の環境整備に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修や勉強会に参加している。各職員の疑問・不安には資料を準備し全職員で話し合い、職員が講師となり勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加し、交流の機会の確保を行っている。また、相談等を行い、情報交換をおこなっている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入時だけでなく、相談があった時点よりご本人との会話を意識して行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや要望を傾聴している。また、リスク等や二人三脚でご本人の生活を守っていく必要性を説明する事で、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いや希望を傾聴し、また、以前利用していた事業所等の情報を踏まえうえでアセスメントを行い、ケアを提供するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出会ってから最期までを共に過ごす関係を意識しながらの関係作りを行うよう意識している。また、できる家事等を行ってもらいながら、生活に参加していると実感してもらえるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に考える立場としての関わりを大事にしている。ご本人の近況を報告し、継続的に関わりを持ってもらえるようにしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に利用していた商店や美容室に行ったり、ふるさと巡りのドライブ等を行っている。	本人や家族から馴染みの人や場所等を聞き職員全員で情報共有している。ドライブは個別に実施しており、以前住んでいた家の近隣や馴染みのお店を通る等して、本人が忘れてしまったとしても雰囲気を楽しんでもらう支援を続けている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士の相性を考慮しながらの席の配置、手工芸・レクの提供を行っている。また、支援の必要な入居者さんには支援を行い、トラブルを最低限に抑えるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も遊びにきてくれるご家族もいる。また、退所後に支援が必要な方には、支援を行えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の気持ちを傾聴することを意識して行っている。また、表出の困難な方に関しては、日頃の生活から情報を得るようにし、職員間で共有するようにしている。また、ご家族からも情報を得るようにしている。	利用者の思いや意向は、アセスメントや日々の会話のなかで聴き把握に努めている。「コーラが飲みたい」「買い物に行きたい」等の要望に応えている。また週間献立表のなかで、利用者の食べたいもの、好評だったメニュー、不評だったメニュー等、情報を記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話やご家族、以前利用していた事業所より情報を頂くようにし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「出来る事」「楽しんで行っていること」を意識して観察を行い、職員で情報共有し、把握するようにしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にご本人・ご家族・職員に参加してもらい、今必要な事、希望等の意見を出し合い、計画を作成するように努めている。	本人の意向を反映した介護計画の作成に努めている。計画は6ヶ月に1回、見直しは3ヶ月に1度、毎月1度は職員間でケアについて話し合いを行っている。目標は各利用者ごとに、「元気で頑張る表」と題し壁に張り、○✖で書き込むことで実施記録を可視化し利用者が目標達成に意欲的に取り組める工夫をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を行い、常に職員間での情報を共有できるようにしている。また、職員の気づきを大事にし、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の「やりたいこと」を大事にして、ニーズに応えるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問看護や訪問理美容を利用している。また、買い物や散歩を行っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医の継続受診を行ってもらっている。また、家族の同行が困難であれば職員で対応も行っている。かかりつけ医との連携も図っている。	病院受診は利用者と家族の希望に合わせて対応を行っている。コロナウィルス感染予防による家族との面会を制限しているため家族と会える時間を大切にしたい意図があり、基本的にはご家族同行にて受診をお願いしている。しかし難しい場合は職員が対応している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な事でも報告し、また、不安や疑問を相談し、助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、必要な情報交換を行っている。また、日頃の定期受診でも情報提供することで、良好な関係を保てるよう努力している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の意向の汲み取りが困難。ご家族とご本人を中心に考えた終末期のありかたを定期的に行うように努めている。	入居前には必ずご家族へ看取りに関する場合の確認を取っており、看取りに関する指針が確認できた。 現状では看取りの方はいないが、職員は定期的に勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を定期的に行っている。また、応急手当等の資料を目につくところに掲示している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回(1回は夜間想定)、消防署との避難訓練を行っている。避難訓練は付近の住民に声かけを行っている。	年2回の避難訓練の実施は2回の実施が確認ができた 避難訓練前には地域住民への参加声かけを行っているが実際に参加はなかった。 災害時における備蓄の確認ができた。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助・介護をする立場ではなく、お手伝いをさせていただくという立場での声かけ・支援を心がけている。また、守秘義務に関しては、人職時の説明・同意を得ており、勉強会も行っている。	利用者一人一人を尊重する声かけや居室やトイレは扉が設置され、使用時には閉める対応を行い、プライバシーを守るための配慮がされている。防犯カメラの設置があり、共有ホールや玄関先、廊下の防犯を行い、不審者が施設内に入ってくることへの防止策や事故の原因追及と利用者の安全確保に役立っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の関わりだけではなく、個別での外出機会を設けたり、居室訪問等を行い、本人の思いを表出しやすい環境作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	柔軟なタイムスケジュールにし、本人の希望や体調に合わせて過ごしてもらえるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベントのプレゼント等を利用し、必要なものやお洒落を楽しんでもらえるようにしている。また、定期的に希望者には白髪染めを行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものの希望を聞いたり、季節・イベントを感じてもらえるような献立作りを行っている。また、調理の下ごしらえや食器洗いを手伝ってもらっている。	テレビや音楽を流し、職員と一緒に同じ食事を食べるにより楽しむことができる支援を行っている。食事形態にも気を配り、ミキサー食や一口大に刻み食べやすい工夫をされている。また、食材によっても食事形態を変えている。月に1回はおやつ会を開催し、ホットケーキやヒラヤーチーと一緒に作り、楽しむことができている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の摂取しやすい形態での提供や食べたい時間に食事の提供をし、水分は希望時や自由に摂取できるように準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の習慣を尊重しながら、毎食後の口腔ケアの支援を行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を大切にし、一人ひとりにあわせた声かけや支援を行っている。	排泄チェック表を使用し、利用者の排泄間隔を考慮しながら全員トイレ誘導をしている。尿量が多い方については主治医と相談しながら4時以降は水分摂取量を減らす工夫も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談したり、排便の周期を把握するように努めている。また、必要時には腹部マッサージ・温罨法を行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は、大まかに決まってはいるが、本人の希望を尊重し、無理な声かけや誘導を行わないようにしている。希望者には、毎日の入浴も可能ではあるが、職員の配置等を考慮し、本人の時間を決めている。	入浴日を決めずに利用者の希望に合わせて入浴支援をしている。現在、湯舟を希望される方はいないが、希望があれば対応できるようにしている。入浴拒否の方への対応は声かけや時間を変えることで入浴することができているが、暴れて転倒する可能性もあるため安全面も考慮し、男性職員1名を必ず配置する工夫をしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室だけではなく、ソファー等を利用し、自由に休息がとれるように環境整備を行っている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	作用・副作用等を職員がいつでも確認できるようにしており、ご本人に合わせた服薬法要での支援を行っている。	服薬の際は一包化されている薬を利用者の名前と薬を確認して服薬を行っている。 職員全員が把握できるように、薬情報をまとめたつづりがあり、職員が閲覧できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意な家事や手工芸等を行ってもらっている。また、季節に合わせた園内外レクを行い、気分転換や楽しみを感じてもらえるように努めている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り希望にそった外出支援を行っている。日頃から入居者さんの希望を聞くようにし、園外レクに繋げるようにしている。また、重度の方も一緒に外出できるように工夫を行っている。	新型コロナウイルス感染予防にて、外出する機会が減り、以前は外出支援を適宜行っていたが、1週間に1回職員が利用者の住んでいた付近へのドライブや買い物に連れて行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に合わせた金銭管理を行ってもらっている。また、希望の買い物ができるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話がしたいときには、一緒にかけるようにしている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた手工芸等で居間を装飾したり、入居者さんと一緒に掃除したり、居心地の良い環境を一緒につくるように努めている。	季節に合わせた飾りつけを心掛け、テレビや音楽が流れている共有空間は過ごしやすい雰囲気があり職員皆で努力している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いろいろな場所にソファ等を設置し、好きなときに好きな人と好きな場所で過ごしてもらえるようにしている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に在宅で使用していた家具や寝具の持ち込みをお願いしている。	本人の好きなカレンダーや絵、家族の写真を飾り、家具を持ち込むことで住みやすい環境作りに力を入れている。オムツ類は取りやすいところに設置され、カーテン等で隠されプライバシーへの配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境をバリアフリーにし、環境を整備することで自由に行動できるようにしている。		

目標達成計画

作成日: 令和 3年 3月 11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進委員会に職員の参加	運営推進委員会に持ち回りで職員が参加し、委員の方、地域の方たちとの交流で意見交換等おこなう。	参加した職員が書記、議事録等を作成する	2ヶ月
2		手洗い場、浴室に感染症対策のアルコール、石鹸、洗剤が利用者の手の届く所に置かれている。	アルコール等保管場所を決める。	使用するときには職員が準備し使用後は保管場場所に置く、戻すことを徹底する。	1ヶ月
3		理念が変わらない。	新しい理念を掲げ、徹底して取り組んでいく。	ミーティング時に話し合っ決めていく。他施設等の理念を参考にしたり、職員個々で思い思いの理念を掲げる。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。